

「自己責任」がとれる大人になるためには

福岡県・筑紫女学園高等学校 2年 黒川 文香

「あたしの先月のケータイ代、3万円でお母さんに怒られた〜」

「まじで〜。でも普通やん？」

バスに乗っていると私と同じ世代の子がこんな会話をしていた。この人たちの金銭感覚は一体どうなっているのだろうか。と思うと同時に、私自身の金銭感覚と自己責任について考えてみるきっかけになった。

私は、小遣いを労働して得ている。労働といっても、私の高校はアルバイト禁止なので、家庭内で家事労働アルバイトをしている。小学生の頃は、頑張ったことなどを月末に紙に書いて親に提出し、それを元にして親が話し合い「学習手当」や「お手伝い手当」それに例えば陸上大会で入賞した時などは「特別手当」がもらえるというシステムになっていた。

このシステムはその月をどう過ごしたかを反省したり、自己アピールしたり、それを文章にする点では良かった。しかし評価により、小遣いにばらつきがあり不満もあった。現在は、家事労働1回につき50円に換算され、その収入+基本料金1,200円がもらえるというシステムだ。主な仕事は、いわゆる家事全般で洗濯・食器洗い・掃除・アイロンかけなどだ。初めは、毎月決まった額

だけもらえる方がいいと思っていた。しかし我が家は共働きなので、すればするほど感謝されるし小遣いは増えるので、今では妹とどっちがごみ出しに行くかでもめるぐらいである。本来、無報酬とされる家事労働だがその仕事の重要性は収入を得ることから認識できた。

しかし、やはり他人はどのくらいもらっているのか気になるところだ。金融広報中央委員会『家計の金融資産に関する世論調査』（平成16年）の高校生1ヶ月当たりの小遣いの平均は6,200円である。我が家の小遣いシステムでは自分の頑張り次第で、とてつもなく高い額がもらえたりもするのだ。こうなると自ら稼いだ小遣いがとても大事になり、無駄遣い出来なくなる。モノを買うときは、値段を見て何回分の仕事だと考えてしまい、その価値があれば買うといった判断の基準になっている。だから、少しでも安い物と思い、同じ商品ではどこの店が安いのかと情報収集して比較検討をするようになったのも確かだ。

例えば先日、携帯音楽プレーヤーを購入するのに2週間もの時間をかけてしまった。何故かというところの機種が使いやすいのか。充電は持つのか。どういった方法で音楽を

入れるのか。こうした項目をクリアした商品を探し出し、決定するのに時間もかけた上で今度はどこが安いのかと何軒も電器屋を歩き回った。そこまで検討して購入したその商品は愛着があるし、とても気に入って毎日使っている。

私たちの周りには、誘惑が多すぎる。新曲は次々に出るし、季節ごとのファッションに、コンビニのお菓子や雑誌などきりが無い。私たち高校生は欲しい物がたくさんあり過ぎて、小遣いの範囲内で抑えることはとても難しい。周りから見たらどうでもいいような物も、流行っている物も、好きなタレントのグッズも全て欲しいが、残念ながら小遣いには限りがあるのだ。そこで、私は自分で欲しい物の中で優先順位をつけて購入するようにしている。こうした私の金銭感覚は、小学生以来の小遣いのもらい方から来ている。

これから高校を卒業して親元を離れて生活するようになれば、自分で稼いだ収入の中から食費・住居光熱費・保健衛生費など生きていく上で必要なものから支払っていく。冒頭に書いた人のように、携帯代金3万円支払っていたら生活に行き詰まるのは、目に見えているのではないか。自己責任のある大人になるということは、まず正しい金銭感覚を身につけることではないかと考える。

街中には消費者金融の看板があちこちにあり、交差点の角のビルは1階から最上階までほとんどがカタカナ3文字や4文字の消費者金融の会社で埋め尽くされていて、とても賑やかだ。無人契約機などはいたる

ところにあり、とても身近なものだと錯覚してしまう。テレビでは、頻繁にCMが流れ「頑張ったあなたに」と笑顔の女性が語りかけてくる。果たして大丈夫なのだろうか。

そもそも消費者金融からお金を借りる（＝借金する）ということはどういうことか考えてみたい。まずお金を借りると利息というものが発生する。利息とは、金銭を貸した報酬として貸主が借主から一定の割合で定期的に受け取る金銭のことである。街を歩いているとよくティッシュをもらうが、このティッシュは消費者金融の会社が多いことに気づく。驚いたことにこの利息は何と年利29.2パーセントと書いてあった。こう言われるとよく分からない部分もあるが、例えば100万円を1年間借りたとしたら、1年後には元金100万円＋使用料の29万2,000円を返済しなければならないのだ。この事実をどれくらいの人が理解して借りているのだろうか。多分、知らない人が多いのではないか。実は私も金融広報中央委員会が出している『きみはリッチ?』という冊子を見て知った。中学や高校でも習う機会は限られている。こんな重大なことを知らないで、誘惑が多い社会に出るのはとても危険だ。大人の責任も重大である。

そうした借金が積もりに積もり、その借金を返す為に借金をしている人がいるというから驚きだ。こういった人を多重債務者というそうだ。返済が困難になり、裁判所に破産を申し立てているいわゆる自己破産者は2003年最高裁判所『司法統計年報』によると約24万件で毎年急増している。また自己破産予備軍は約150万～200万人と

いう。多重債務になった原因として日本クレジットカウンセリング協会によると1位が生活費、2位が収入減少・失業・倒産、3位が遊興・飲食・交際、4位がギャンブル、そして5位が他人の債務の弁済である(2004年)。これは自分がお金を借りていないにも関わらず、他人の借金の返済の為に自分が自己破産に陥るのだ。何故かという、名義貸しや連帯保証人になったということが原因だ。クレジットカードには名義人になった人が返済をする義務があるので、気軽に友達に貸す人がいるそうだがとても危険だ。

日本クレジット産業協会『日本の消費者信用統計』、総務省統計局『人口推計年報』によるとクレジットカードの利用者は年々増えており1982年の発行枚数が5,705万枚で利用額が3兆2,821億円なのに対し2003年の発行枚数は2億6,362万枚で利用額が26兆5,819億円にもなる。これは国民1人あたりが2.06枚のクレジットカードを持ち20.8万円を利用している計算になる。クレジットカードは、今、お金が無くても宝石でも車でも何でも買うことが出来る。だが、今後何年かにわたり支払っていくことになる。決して打ち出の小槌でも魔法のカードでもないのだ。毎月の支払いを病気や事故で収入をなくした場合、どうするのだろうか。

最近振り込め詐欺やキャッチセールスな

どの事件を新聞やニュースで目にすることが多い。儲かると言われたり、あなただけと言われて高額な商品を言われるままに購入したり冷静に判断したら嘘だろう、と思うような話が世の中に氾濫している。何も知らなければ騙されてしまうのだと思った。知ることがどんなに大切なことかがよく分かったし、逆に知らないことがいかに危険かということも分かった。

現在は、自己責任の時代といわれているが、自分で責任を取るには正しい情報や知識がなければ判断出来ないし、検討も出来ない。常に新しい情報を分かりやすく、世代に応じて発信し続けて欲しいと思う。私たちもそれに耳をかたむけ、学んでいくことが大切である。私の小遣いシステムを通して身についた金銭感覚は、自己責任能力を養うものであったと考える。経済の問題に関していえば、自己責任とは、自らの目的を実現する為、自らの判断で金銭のやりくりが出来ることだと考える。今までは金融や経済に関する問題は遠い世界の話だと思っていたが、実は密接に生活に関係することが分かった。これを機会に大学では金融や経済に関して学びたいという気持ちが強くなっている。そして、将来は学んだことを生かして、自己責任がとれる大人に、私はなりたい。